

(仮称) かつしか

アート・カルチャー基本方針(案)

Katsushika Basic Policy For Arts and Culture



目次

第 1 章	基本方針策定の趣旨	1
	1 策定の趣旨	1
	2 文化・芸術の範囲	2
	3 基本方針の位置付け	3

第 2 章	葛飾区の文化・芸術に係る現状	4
	1 文化・芸術を取り巻く本区の現状と社会状況について	4
	2 区民意識調査結果	5

第 3 章	文化・芸術振興の課題と方向性について	8
	1 文化・芸術振興施策における課題 ～区民意識調査から得られた課題～	8
	2 基本となる方向性（目指すべき未来像）	9
	3 取組の柱	9

第 4 章	基本方針	10
	1 誰もが身近に感じ、体験できる機会の創出	10
	2 多様な主体と結びつく人づくり	11
	3 文化・芸術の振興拠点と情報発信の強化	12
	4 地域経済の発展における新たな魅力づくり	13
	5 文化・芸術の推進体制の強化・充実	14

資料編	15
資料－1 「令和5年度 葛飾区区民モニターアンケート調査」	16
資料－2 「葛飾区文化芸術に関する基本方針策定に向けたアンケート調査」 ..	22
資料－3 策定経過	38

第1章 基本方針策定の趣旨

1 策定の趣旨

葛飾区は、江戸時代頃から継承してきた伝統工芸や菖蒲園、柴又帝釈天を中心とした周囲の旧家や寺社、用水路跡を含めた葛飾柴又の文化的景観といった歴史的文化に加え、全国的になじみ深い本区ゆかりの映画や漫画・アニメ等『葛飾区ならではの』様々な文化・芸術の資源が根付いています。

近年、こういった文化・芸術の資源を、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の幅広い関連分野に活用していくことが求められています。



堀切菖蒲園

このような状況の下、本区では、「葛飾らしい文化や産業が輝く、笑顔とにぎわいあふれるまち」を葛飾区基本構想（以下「基本構想」という。※1）における基本的な方向性の一つとして掲げ、葛飾らしさのある豊かな地域文化や、ふるさと葛飾を愛する心・誇りをはぐくみ、誰もが文化・芸術に触れつつ、心豊かに暮らせるまちづくりを目指すこととしています。また、葛飾区基本計画（以下「基本計画」という。※2）では「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクトを主要プロジェクトの一つに位置付け、まちの魅力を磨き上げ、発信し、賑わいのあるまちづくりを進めています。

しかしながら、本区のこれからは少子高齢社会の到来とともに、人口減少や、そこに起因する地域経済の停滞など様々な課題が想定されます。基本構想で掲げた目指すべきまちの姿の実現に向け、基本計画における推進プロジェクトを効果的に展開するとともに、将来起こり得る社会的課題に対して、今から備えておく姿勢を打ち出すことが重要であると考え、「文化・芸術」という観点から既にあるものをどう発展的に生かし、今後どのように取り組むかを基本方針として定めるものとします。



柴又帝釈天

2 文化・芸術の範囲

文化は、最も広く捉えると、人間が自然とのかかわりや風土の中で生まれ育ち、身に付けていく立ち居振る舞いや衣食住をはじめとする暮らし、生活様式、価値観など、およそ人間と人間の生活に関わることのすべてを意味するとともに、人間が理想を実現していくための精神活動及びその成果であるという側面があります(※3)。具体的には、文学や音楽、美術、写真などの芸術のほか、映画や、漫画などのメディア芸術、さらには講談や落語などの芸能、茶道や書道、食文化などの生活に係る文化、囲碁や将棋などの国民的娯楽、有形及び無形の文化財、地域固有の伝統芸能など、幅広い範囲が含まれるものと考えられます(※4)。

本区においても、多くの区民が趣味や興味・関心事に対して、文化・芸術との意識は持たないまま、様々な活動を行っているという実情があります。この基本方針は、このような幅広い範囲の「文化・芸術」を対象としながら、区民が日常の中で当たり前に行っていることも、自らを磨き、輝かせ、個々の生活やまちに豊かさをもたらす文化・芸術活動であると認識するための役割も担っています。



金町浄水場取水塔



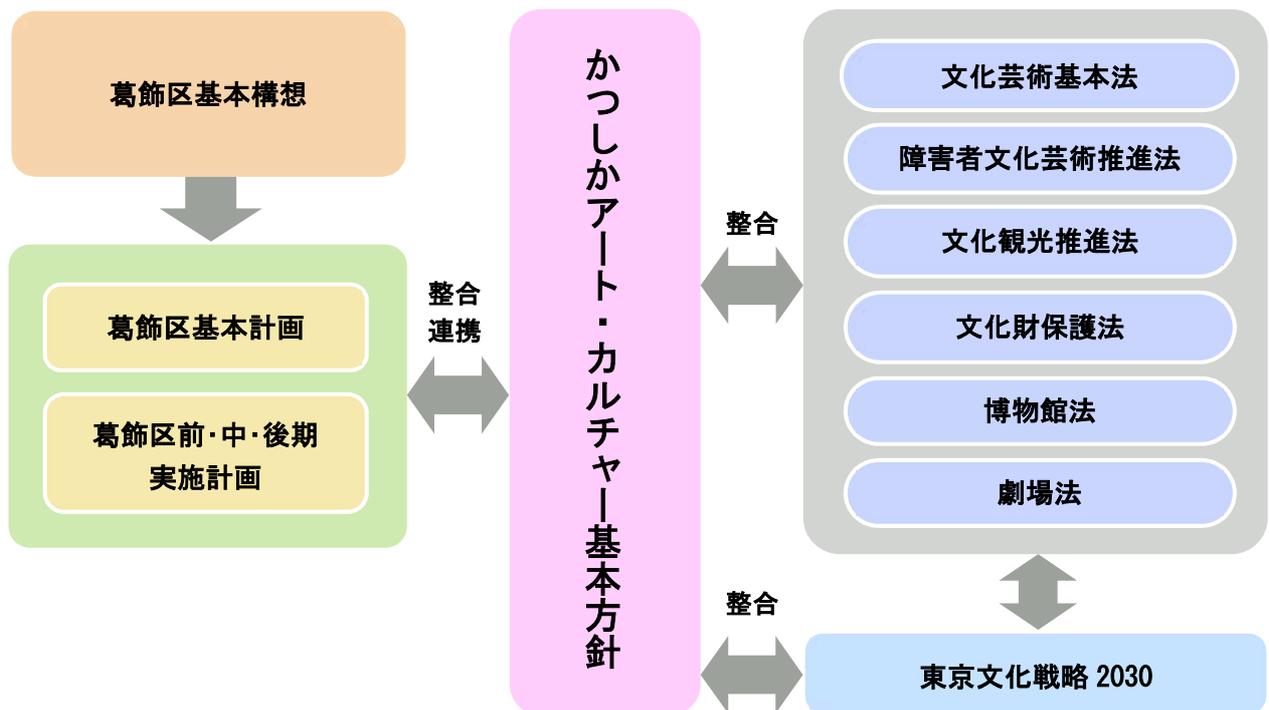
しばられ地蔵

3 基本方針の位置付け

この基本方針は、基本構想の基本的な方向性を踏まえ、基本計画や各実施計画と整合・連携しながら、本区の文化・芸術振興のための方向性を示すものです。なお、文化芸術基本法をはじめ、障害者文化芸術推進法のほか、文化観光推進法、文化財保護法、博物館法、劇場法などの関連法令や国の方針及び「東京文化戦略 2030」なども参酌し、これらとの整合を図っています。

なお、「かつしかアート・カルチャー基本方針」という名称は、「文化・芸術」が一人でも多くの人に近しい存在であると感じていただけるようお願いを込めて決めました。これからの本区の文化・芸術が、日常生活の中で当たり前に行動していることのような、一層身近な活動となることで、心の豊かさを育む要素となればと考えています。

(仮称) かつしかアート・カルチャー基本方針の位置付け



【参考元】

- ※1 葛飾区基本構想（令和3年3月策定）
- ※2 葛飾区基本計画（令和3年8月策定）
- ※3 文化芸術の振興に関する基本的な方針（平成19年2月19日閣議決定）
- ※4 文化芸術基本法（第8条～第14条）

第2章 葛飾区の文化・芸術に係る現状

1 文化・芸術を取り巻く本区の現状と社会状況について

現在、葛飾区における人口は増加傾向にあり、生産年齢人口の増加に伴い高齢化率はわずかながら減少傾向にある一方、少子化については歯止めがかかっていない状況です。本区では子どもを産み、育てやすい環境を整備するため、独自の施策や子育て支援の拠点施設の整備を進めています。

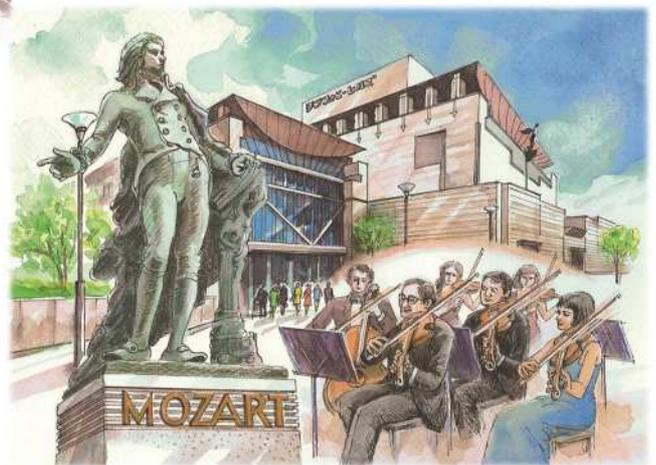
また、地域経済の担い手である区内中小企業においては、物価高騰とともに人手不足が顕著になり、労働力として外国人を求めている状況です。このため、本区の外国人人口はコロナ禍以後年々増加し、本区人口全体の約6%を占めています。

さらに、社会全体を通じた情報通信技術の急速な発展と普及により、様々な分野でデジタル化が進展し、区民の生活様式にも変化が見え始めています。

このような状況の中、国による文化・芸術に関する法整備なども進められ、本区においても、多様な主体が文化・芸術によって生み出す様々な価値を尊重し合い、その継承及び発展、創造に活用するため、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の多くの分野と連携した取組が求められています。



まちの風景（立石駅周辺）



かつしかシンフォニーヒルズ

2 区民意識調査結果

基本方針策定にあたり、「令和5年度葛飾区区民モニターアンケート調査」及び「葛飾区文化芸術に関する基本方針策定に向けたアンケート調査」の2つの区民意識調査を実施しました。詳細は資料編（15ページ以降）を参照ください。

「令和5年度 葛飾区区民モニターアンケート調査」より（抜粋）

1 文化・芸術活動に対する意識及び参加の有無と手段（問17, 18, 22関係）

「文化芸術活動を鑑賞、行うことの大切さ」について、86.9%の人が「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」と回答しています。

また、1年以内での鑑賞の有無については、25.3%の人が「鑑賞していない」と回答しています。鑑賞以外の文化・芸術活動については、「特にしていない」が72.7%と最も多く、活動を行った人の割合は全体の3割未満となっています。

2 活動の頻度と場所（問18, 20, 23, 24関係）

文化・芸術の鑑賞をした人の頻度は「数回（1年で10回未満）」が最も多く56.1%で、現地や会場で直接鑑賞した人が約6割、自宅での鑑賞が約4割となっています。

鑑賞以外の文化・芸術活動については、活動した人の頻度は「数回（1年で10回未満）」が最も多く69.4%でした。活動場所は区内公共施設（地区センターなど）が21.3%、かつしかシンフォニーヒルズ16.7%、かめありリリオホール11.1%となっています。

3 文化的な環境を充実させるために重要なこと（問29関係）

「身近な場所で気軽に文化・芸術に触れられる機会の充実」が64.9%で最も高く、次いで「子ども、高齢者、障害者、外国人など、誰もが文化・芸術活動に親しめる機会の充実」が41.2%、「著名なアーティスト等、一流の文化芸術に触れられる機会の企画・開催」が39.4%となっています。

4 国際文化交流に期待すること（問30関係）

国際的な文化交流に期待することについては、「相互理解が進むほか、互いに良い刺激を受けることができる」が54.3%で最も高く、次いで「国際化が進み、国際的に開かれた豊かな文化を持つ区に発展する」が45.2%、「多言語対応のほか、日本語で会話できるようになれば、外国人との共生はよりスムーズに受け入れることができる」が33.8%となっています。

「葛飾区文化芸術に関する基本方針策定に向けたアンケート調査」より

1 各世代における文化・芸術に触れる機会（設問2-Q1）

身近に文化・芸術に触れる機会は、成人期、高齢期と年齢層が高くなるほど増えていますが、乳幼児期では35.5%、青少年期では29.7%が「やや足りない」「足りない」と感じています。

2 高齢者や障害者の文化・芸術に触れる機会を創出するために重要だと思うこと

（設問2-Q2, 3, 14）

高齢者及び障害者いずれも「文化・芸術に触れることができる環境の整備」が求められています。また、本区の新たな魅力を生み出すものとして障害のある方などが自由に表現できる美術展への期待も14.8%あります。

3 今後活動を発展させていくための課題（設問2-Q5）

今後活動を発展させるための課題が「ある」と答えたのは53.9%で、その内容としては多くが活動場所や資金、人材の確保、後継者の育成となっています。

4 後継者の育成（設問2-Q6）

後継者の育成状況については、「あまり育っていない」「育っていない」が42.1%であり、課題となっていることがわかります。また、それらの理由の自由回答の中には「中高生の継続が難しい」「若者が参加しない」といった意見もありました。

5 芸術作品の活用による葛飾区の新たな魅力を創出する取組（設問2-Q7, 8, 14）

本区の新たな魅力を創出する取組としては「デザインと産業分野ものづくりとの融合」が最も多く33.6%となっています。しかし、他分野の人材活用を検討したことがある団体は3割未満となっています。また、デザインや情報発信の分野で専門の力を活用したいと考えている団体が23.9%あります。

6 文化・芸術活動を行う際の課題（設問1-属性5、設問2-Q4, 10）

活動を行う際の課題としては「場所の確保」が最も多く26.7%、次いで「人手の確保」が23.9%となっています。さらに場所の確保の課題では「予約が取れない」が最も多く43.5%となっています。また、かつしかシンフォニーヒルズ、かめありリリオホールを「利用したことがない」「そもそも知らない」が24.8%となっています。

7 施設の機能や利用手続きへの期待 (設問2-Q11, 12)

施設にあってほしい機能としては「Wi-Fi」が最も多く39.8%となっています。

また、施設利用にあたり、申し込みなどの手続きを便利にするために望むこととして、自由回答の中からインターネットによる予約・決済システムを要望する意見が多くありました。

8 情報収集の媒体 (設問2-Q9, 13)

情報収集の媒体としては、「広報かつしか」が最も多く34.1%、「ミル」が15.5%で、紙媒体ではない「SNS」「インターネット動画配信」は23.3%となっています。

また、情報誌「ミル」の関心度については、「ほとんど関心がない」「全く関心がない」「知らない」という意見が23.3%となっており、その主な理由としては、改善案の自由回答の中に、音楽以外の情報がわかりにくい、登録団体の活動などをもっと取材してほしいといった意見がありました。

9 文化・芸術を生かした葛飾区の新たな魅力創造 (設問2-Q15)

文化・芸術を生かした本区の新たな魅力を生み出すために必要なものとして、最も多かったのは「誰もが交流や創作活動のために気軽に集うことができる場所の確保」(17.1%)と「区内各地での音楽イベントやアートイベントの実施」(17.1%)でした。

また、「文化財など歴史的な観光資源を生かした観光事業」は11.4%で、下町情緒あふれる街並みや下町文化など文化資源をもっと広めるべきといった意見が自由意見でも多く見られました。このほか「葛飾ならではの映画や漫画を生かしたまちづくり」が10.5%となっています。

10 産業分野との連携による葛飾区の新たな魅力発信 (設問2-Q14, 15)

芸術作品による本区の新たな魅力を創出する取組としては「デザインと産業分野ものづくりとの融合」が最も多く33.6%となっています。また、文化・芸術を生かし魅力を生み出すために必要なことでは、産業分野に関連した「区内中小企業の技術力とデザイン・アートの融合」と「産業分野と連携した、デザイン・アート賞等イベントの開催」を合わせると20.8%となっています。

第3章 文化・芸術振興の課題と方向性について

1 文化・芸術振興施策における課題 ～区民意識調査から得られた課題～

1 文化・芸術に係る体験や学習機会の充実

- ① 幼少期から青年期にかけて教育の場における体験機会の充実
- ② 世代や障害の有無など個々の状況による体験格差の改善
- ③ 国際交流や多文化理解を深める体験や学習機会の充実
- ④ 身近で気軽に参加・鑑賞できる機会の充実

2 人づくりと人材交流

- ① 活動団体の担い手や後継者の育成支援
- ② 分野を超えたクリエイターの交流
- ③ 活動の成果発表やセミナーなどの場の創出

3 活動環境の整備・充実

- ① 交流や創作活動、練習、発表に誰もが参加しやすい場の提供
- ② 予約システムのデジタル化など利用しやすいシステムの構築
- ③ 情報誌等の活用による活動団体やアーティストの取組の情報発信

4 文化資源の活用

- ① 産業分野におけるアートやデザイン等を活用したものづくりの推進
- ② 郷土の歴史や文化資源の認知度向上と活用場の創出
- ③ 葛飾区ゆかりのキャラクターを資源として生かす機会の創出

5 取組の推進体制

- ① 様々な団体・組織とのネットワークづくり
- ② 文化・芸術活動推進のための窓口一本化
- ③ 観光や産業とも一体となった区役所内の横断的な連携

2 基本となる方向性（目指すべき未来像）

魅力をミガキ 個性がカガヤキ 文化をテラス

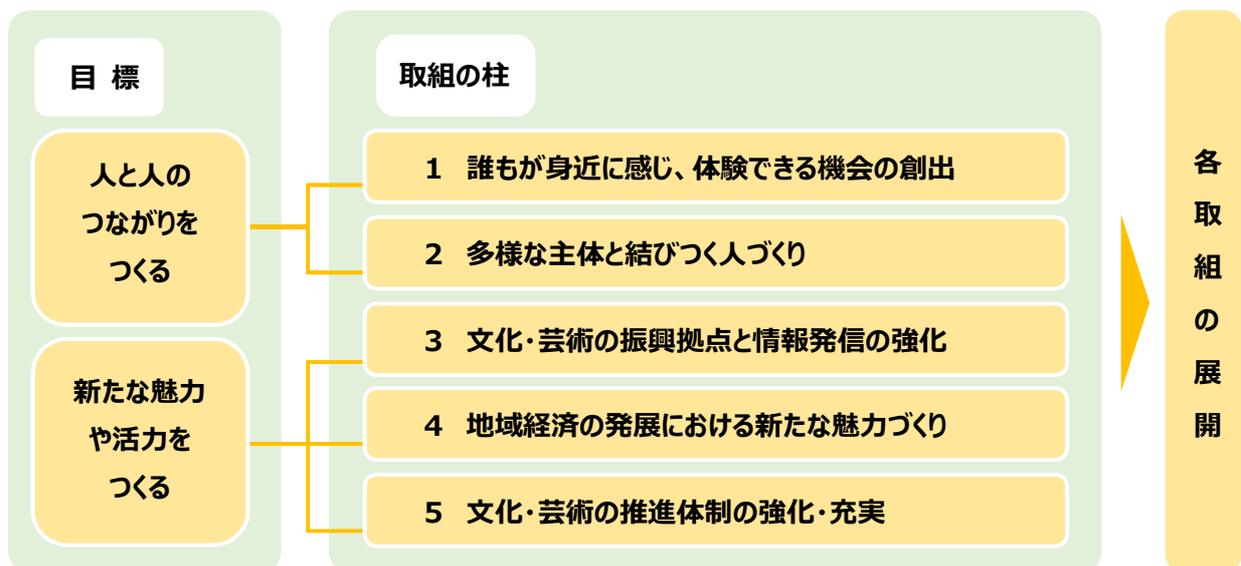
文化・芸術を通じて、誰もが持っている魅力を磨き、個性を輝かせることができる、明るい未来をイメージしています。互いの個性や文化、習慣等、様々な違いを認め合い、分野や世代を超えた人同士のつながりが新たなまちの魅力と活力を生み、これからの葛飾区を照らしていきます。

3 取組の柱

- (1) 誰もが身近に感じ、体験できる機会の創出
- (2) 多様な主体と結びつく人づくり
- (3) 文化・芸術の振興拠点と情報発信の強化
- (4) 地域経済の発展における新たな魅力づくり
- (5) 文化・芸術の推進体制の強化・充実

目指すべき未来像

魅力をミガキ 個性がカガヤキ 文化をテラス



第4章 基本方針

取組の柱 1

誰もが身近に感じ、体験できる機会の創出

身体機能・能力の違いや年齢、性別、国籍、経済的な状況や居住する地域にかかわらず、誰もが公平に文化・芸術に触れられるような体験機会の創出を推進し、街の中でふとしたときに音楽を耳にする、アートを目にする、歴史を感じるまちづくりの取組を推進します。

また、子どもが文化・芸術活動を始めるきっかけづくりや、興味・関心を深める機会を充実することで、創造性や思考力、表現力を育むとともに、文化・芸術を通して誰もが互いの個性、文化、習慣等の違いを認め、相互理解を深める機会を創出します。

取組の方向性

1 地域共生社会の実現に向けた事業企画や取組の実施

子どもや高齢者、障害者、外国人などをはじめ誰もが文化・芸術に触れられる事業企画・設計となるよう配慮し、公平な体験機会の創出に努めます。

2 多様な文化や価値観を尊重し相互理解を深める取組

国や習慣、感性などの違いによる異なった文化や価値観、個性を尊重するためには正しい認識・理解が必要です。国際交流イベントや多文化理解のワークショップなどを通して、異なる文化や価値観と触れ合う機会の充実を図ります。

3 幼少期からの体験機会の創出

生涯を通しての文化・芸術活動へのきっかけづくりとして、幼少期から文化・芸術に慣れ親しみ、興味・関心を惹く体験機会の充実を図ります。

4 各地域での体験機会の充実

年齢や障害の有無、経済的な状況にかかわらず、住み慣れた地域で気軽に参加・体験できる機会の充実を図ることで、体験格差の改善を図ります。

関連する取組の柱と方向性

取組の柱 4-2 区内中小企業における技術力をデザインやアートに生かすための支援

分野や世代を超えた様々な人が出会い、交流する場の活性化を促し、イベント時の協力関係や互いに刺激し合える関係づくりを創出することで、次世代のアーティストや若手団体の育成、支援を強化します。

また、区内で活動する若手アーティストが、デザインや情報発信分野でのクリエイターとして活躍できるよう、様々な団体とのネットワークづくりを支援します。

取組の方向性**1 協力関係を生み出す人材交流の促進**

文化・芸術活動を行っている個人や少人数の団体と、分野・世代を超えた人同士が出会える場を作ることで、相互の協力関係や新たなイノベーションの構築を促します。

2 次世代アーティストや若手団体の育成、支援

若い世代や団体のニーズを捉え、日々の活動や発表の機会、他団体とのネットワーク形成などの支援を通して次世代のアーティストや団体を支援、育成します。

3 専門分野の力の活用

区内で活動する若手アーティストを、デザインや情報発信分野でのクリエイターとして活用するなど、専門分野の知識や技術を生かせる人づくりと関係づくりを支援します。

関連する取組の柱と方向性

取組の柱 4-2 区内中小企業における技術力をデザインやアートに生かすための支援

取組の柱 5-1 地域の文化振興を担う団体・組織との連携強化

時代に即した文化・芸術の振興拠点として、区民の創作活動や練習に適した施設となるよう、予約や決済等のデジタルサービスの充実など、利便性の向上と環境整備を推進します。そして、区民の「新しい広場」として、多様なコミュニティを生み出し地域の発展を支える機能を強化します。

また、情報誌等を活用し、区内で活動する団体やアーティストの取組等を掲載するなど、地域密着型の魅力発信を支援するとともに、SNSや動画配信等を活用することで、需要のある情報をその人に合わせた方法で取得しやすくなるよう、情報発信の強化に努めます。

取組の方向性

1 社会状況の変化に応じたサービスの変革

施設の利用にあたり、予約や決済等のデジタル化など社会状況の変化に応じたサービスの提供を図ります。

2 伝えるから伝わる情報発信へ

情報誌等を活用し、区内で活動する団体やアーティストの取組等を掲載するなど地域密着型の魅力発信につなげていきます。またSNSや動画配信に対応した情報発信の工夫を図っていきます。

3 各種活動における練習スペース等の確保

交流や創作活動、練習のために誰もが気軽に集うことのできる場所の提供に努めます。

4 文化・芸術の拠点としての再構築

文化・芸術活動が活発に行われる区内公共施設については、インターネットサービスの充実など利便性を高めるとともに、施設間の協力体制の構築と連携の強化を図ります。とりわけ、かつしかシンフォニーヒルズ、かめありリリオホールにおいてはその拠点施設として文化・芸術振興のコーディネート機能を強化し、地域の発展を支える「新しい広場」となるよう、指定管理者制度による民間事業者のノウハウを最大限に活用した、柔軟性の高い施設運営と事業展開を行います。

関連する取組の柱と方向性

取組の柱 2-3 専門分野の力の活用

全国的に馴染み深い葛飾区ゆかりのキャラクターや、葛飾柴又の文化的景観などの歴史や文化、花菖蒲等の多彩な観光資源を発掘し、磨き上げ、その魅力を効果的に発信するとともに、ものづくり産業とアートを掛け合わせることで、デザイン性を付加価値とした新たな魅力を創出します。

また、区内の中小企業などと連携し、その企業が持つ技術力を生かしたアートイベントや、デザインを用いたまちづくりを支援します。

さらに、伝統や文化資源の価値を保護・継承し、その多角的な活用を図り新たな魅力を生み出すことで文化・芸術の振興を促進します。

取組の方向性

1 ものづくりとアートの融合

ものづくり産業とアートを掛け合わせることで、デザイン性を付加価値とした新たな魅力を創出します。

2 区内中小企業における技術力をデザインやアートに生かすための支援

区内の中小企業などと連携し、その企業が持つ技術力を生かしたアートイベントや、デザインを用いたまちづくりを支援します。

3 漫画などのキャラクターを生かしたまちづくり

本区ゆかりの「寅さん」「こち亀」「キャプテン翼」「リカちゃん」「モンチッチ」などのキャラクターを生かし、観光事業とともに産業振興につながるまちづくりを推進していきます。

4 歴史的な文化資源や下町情緒を生かした観光資源の再発見

歴史ある文化資源の価値を守りつつ、多くの区民が郷土の歴史や文化への理解・愛着を深めることで、人が集い、賑わいを生む場となるよう観光資源としての魅力向上を図ります。

関連する取組の柱と方向性

取組の柱 2-2 次世代アーティストや若手団体の育成、支援

取組の柱 2-3 専門分野の力の活用

文化・芸術活動を行う個人・団体のほか、子育てや福祉、国際交流、まちづくり、大学、商店街、企業など、様々な団体・組織同士がネットワークを構築し、連携した活動が展開できるよう、つながりを強化します。

また、文化・芸術活動を効果的・効率的に推進していくため、子育てや福祉のみならず観光や産業などと連携した区役所内の横断的な取組を図るとともに、文化・芸術に関する窓口の整理・集約など、わかりやすい組織体制づくりに努めます。

取組の方向性

1 地域の文化振興を担う団体・組織との連携強化

地域行事や賑わい創出の支えとなっている多種多様な団体・企業・組織同士のつながりを構築し、文化・芸術活動の普及と活性化を目的とした連携を強化します。

2 区窓口の整理・集約

文化・芸術活動に係る支援や相談をより円滑にするため、窓口を整理・集約し、わかりやすいインフォメーション窓口となるよう見直しを図ります。

3 文化・芸術を取り巻く区の横断的な取組

子どもや障害者などの文化・芸術活動の推進や、観光や産業と連動した文化・芸術の振興を図るため、区役所内における組織横断的な取組を推進します。

関連する取組の柱と方向性

取組の柱 2-1 協力関係を生み出す人材交流の促進

取組の柱 3-4 文化・芸術の拠点としての再構築

〈資料編〉

資料－1 「令和5年度 葛飾区区民モニターアンケート調査」(第2回ウェブモニター)

【調査概要】

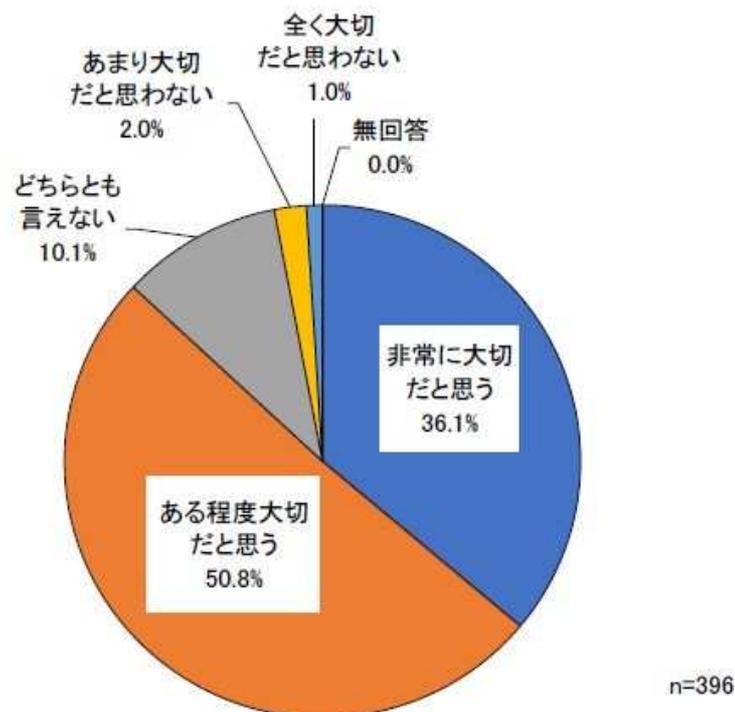
- ・ **目的** 区が実施している施策や区が発信している情報等について、無作為に選定した方から公募により決定した「区民モニター」から、適時かつ具体的なご意見を収集することにより、区政への活用を図るため。
- ・ **テーマ** 「商工振興について」「文化芸術について」「区民モニター(ウェブモニター)調査について」
- ・ **設計**
 - (1) 調査対象 無作為で選定した18歳以上の区民4,000人から公募により決定したウェブモニター500名
 - (2) 調査方法 インターネットでの回答
 - (3) 調査期間 令和5年10月4日(水)から10月23日(月)まで
 - (4) 有効回収数 396名

【調査結果(抜粋)】

(17) 文化芸術活動を鑑賞、行うことの大切さ

問17 あなたは、区民が文化芸術を鑑賞することや、自ら文化芸術活動を行うことは大切だと思いますか？(1つ選択)

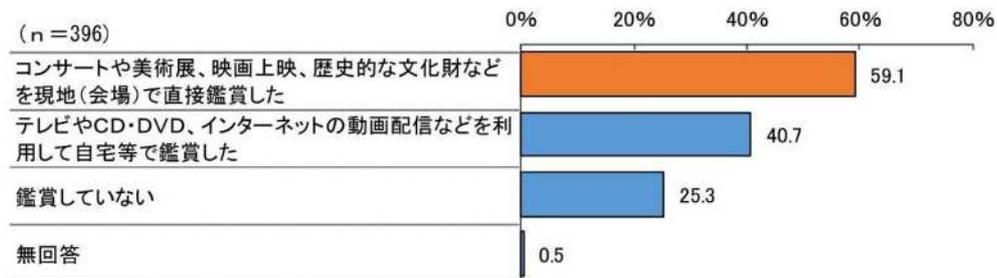
図表－31 文化芸術活動を鑑賞、行うことの大切さ(全体)



(18) 文化芸術の鑑賞の有無と手段

問 18 あなたは、この1年間に文化芸術を鑑賞しましたか？また、鑑賞の手段を教えてください。
 (あてはまるものをすべて選択)

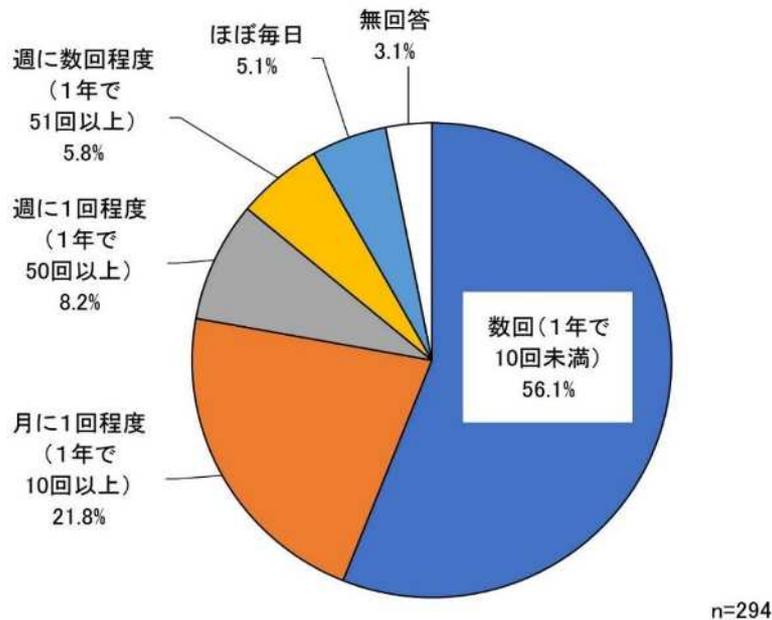
図表-33 文化芸術の鑑賞の有無と手段 (全体)



(20) 1年間の鑑賞頻度

問 20 問 18 で「コンサートや美術展、映画上映、歴史的な文化財などを現地(会場)で直接鑑賞した」・「テレビやCD・DVD、インターネットの動画配信などを利用して自宅等で鑑賞した」と答えた方に伺います。この1年間の鑑賞頻度を教えてください。(1つ選択)

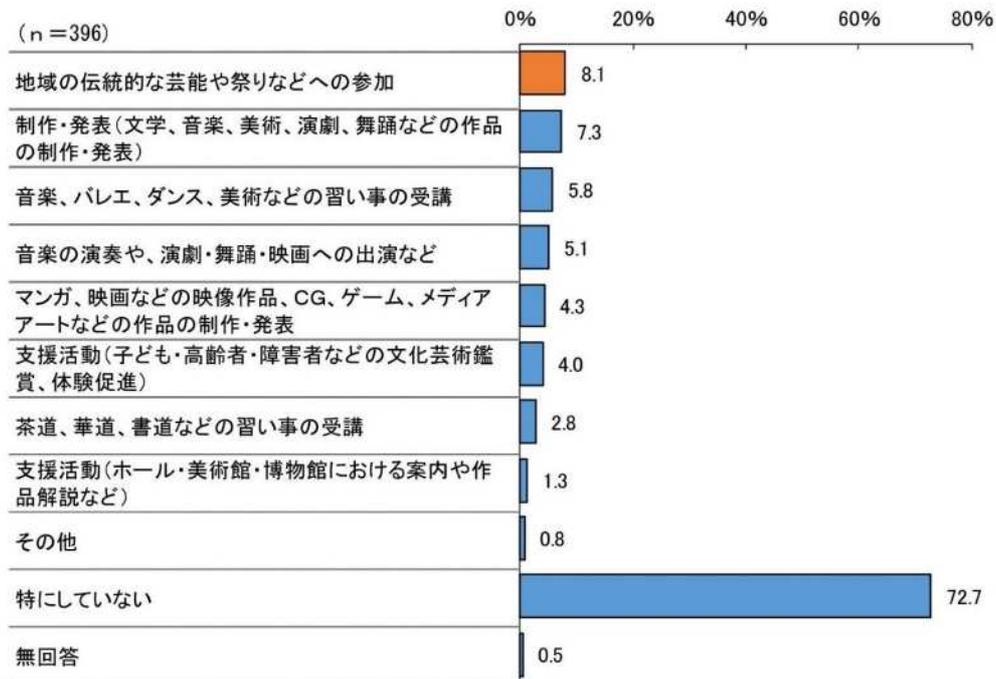
図表-37 1年間の鑑賞頻度 (全体)



(22) 文化芸術活動を行ったか

問 22 あなたは、この1年間に次に挙げる文化芸術活動を行いましたか？(あてはまるものをすべて選択)

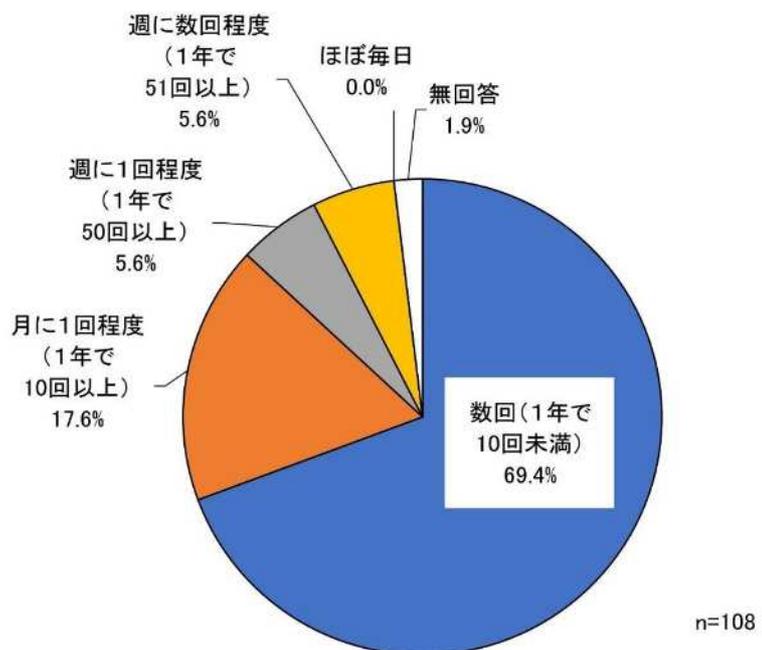
図表-41 文化芸術活動を行ったか (全体)



(23) この1年間の活動頻度

問 23 問 22 で「文化芸術活動を行った」と答えた方に伺います。この1年間の活動頻度を教えてください。(1つ選択)

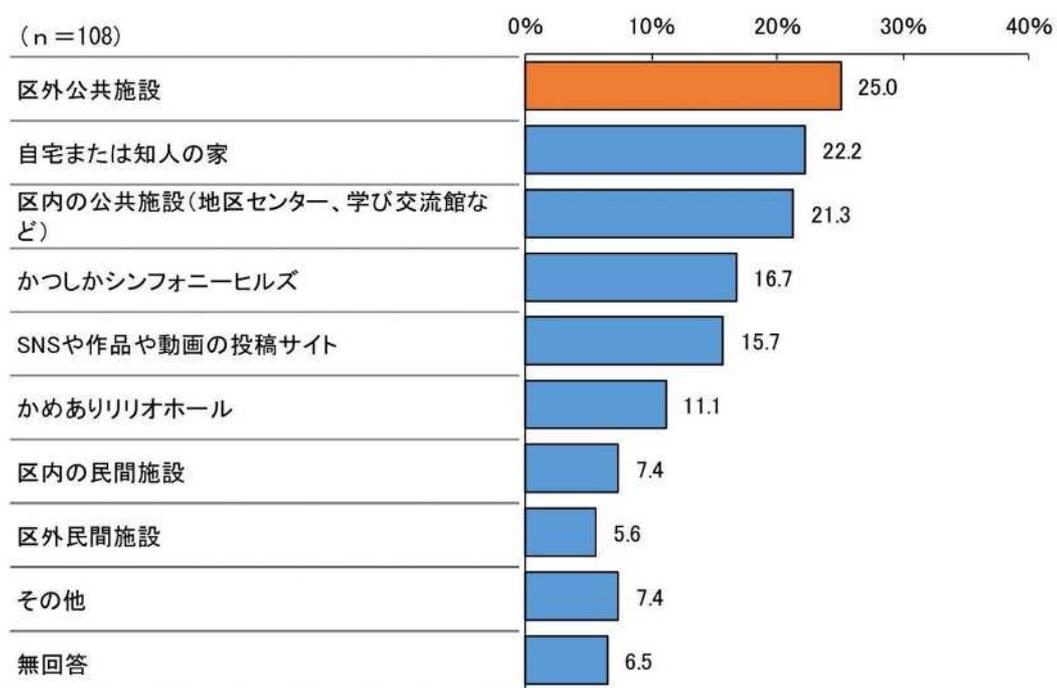
図表-43 この1年間の活動頻度 (全体)



(24) 文化活動を行う場所

問 24 問 22 で「文化芸術活動を行った」と答えた方に伺います。文化芸術活動を行う場所はどこですか？（あてはまるものを全て選択）

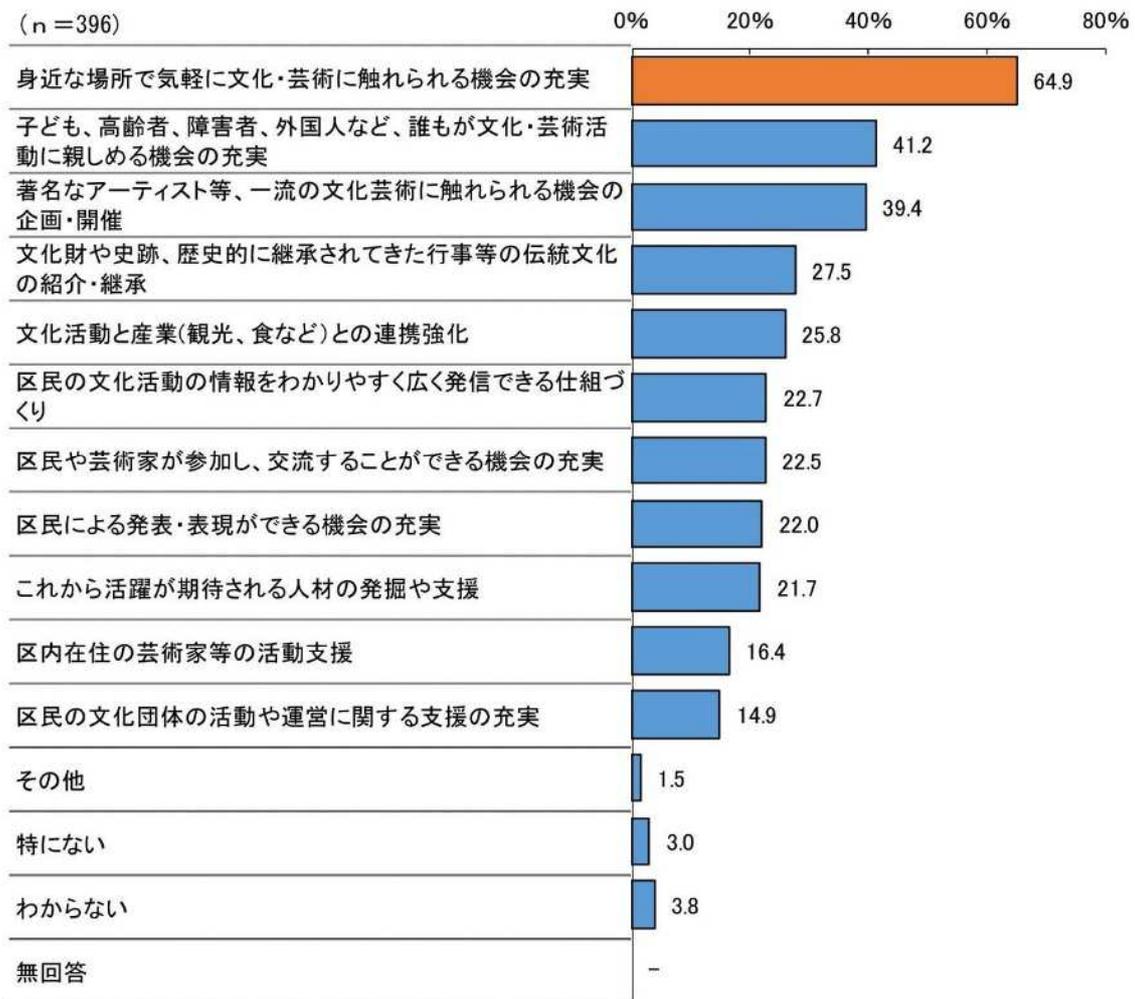
図表－45 文化活動を行う場所（全体）



(29) 文化的な環境を充実させるために重要なこと

問 29 葛飾区の文化的な環境を今より充実させるために、何が重要だと思いますか。優先して取り組むべきことを5つまで選んでください。(5つまで選択)

図表-55 文化的な環境を充実させるために重要なこと (全体)



※「その他」の内容としては、「区出身芸術家の展示機会等の提供」、「上手でなくても気軽に発表できるような場」、「地元企業と協力した取組」などがある。

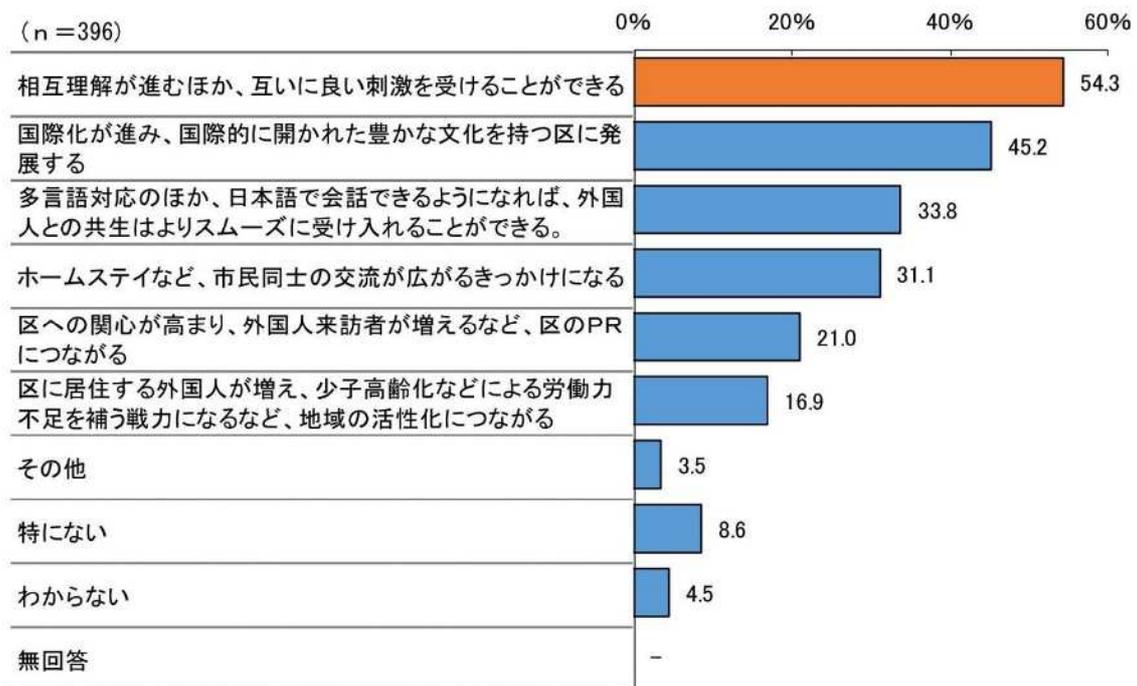
(30) 国際的な文化交流に期待すること

問 30 葛飾区は、海外 4 都市※との友好交流をはじめ、外国文化を学ぶ講座や国際交流まつりなどのイベントを行うほか、区内に在住する外国人との共生施策（日本語学習支援・やさしい日本語の普及など）を進めています。こうした国際的な文化交流の取組について、どのようなことを期待しますか？（あてはまるものをすべて選択）

※葛飾区と友好交流を行っている都市

- ・オーストリア共和国ウィーン市フロリズドルフ区
- ・中華人民共和国北京市豊台区
- ・大韓民国ソウル特別市麻浦区
- ・マレーシアペナン州

図表-57 国際的な文化交流に期待すること（全体）



※「その他」の内容としては、「日本のルールやマナーをよく知り理解する機会の提供」、「住んでいる人が困らないように、スーパーなどでの英語表記などのサポート」などがある。

資料-2「葛飾区文化芸術に関する基本方針策定に向けたアンケート調査」

【調査概要】

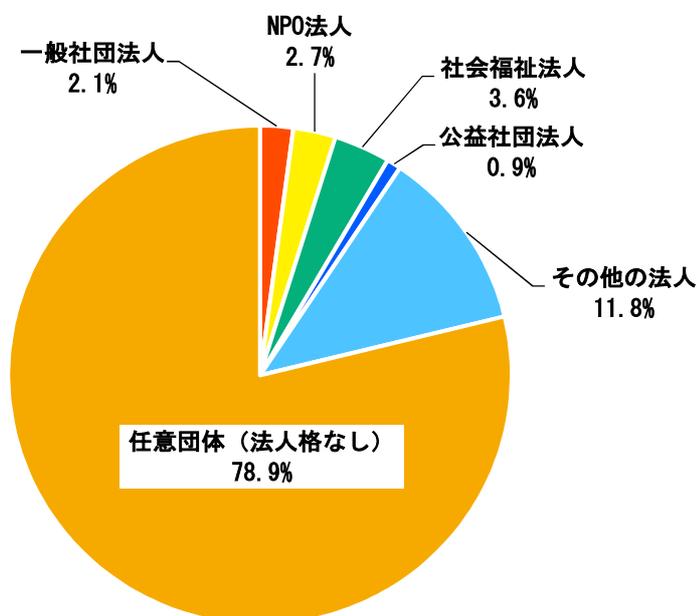
- ・ **目的** 葛飾区の文化芸術に関する基本方針を策定するにあたり、区を取り巻く文化芸術の現状や課題を整理し、今後の施策推進の方向性を検討する基礎資料とするため。
- ・ **設計**
 - (1) 調査対象 区内で活動する団体及び個人（文化・芸術、国際交流、福祉、産業・観光、子育て支援の各団体、教育機関、各地域で活動する団体、高齢者クラブなど）555名
 - (2) 調査方法 インターネットまたはアンケート用紙での回答
 - (3) 調査期間 令和6年8月22日から9月4日まで
 - (4) 有効回答 330名

【調査結果】

設問1（貴団体の）活動状況

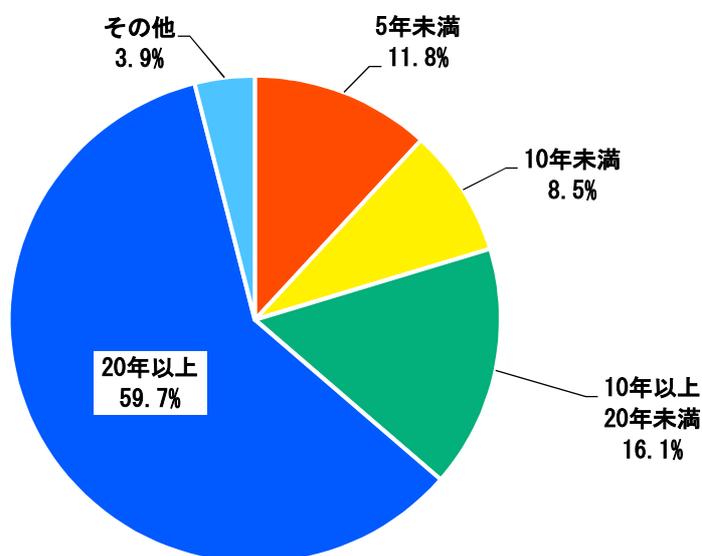
属性1（問）団体の種類をお知らせください（法人格取得予定は、法人格に含む）

回答した団体は約8割が任意団体であるが、社会福祉法人が3.6%、NPO法人が2.7%、一般社団法人が2.1%、その他の法人が11.8%となっている。



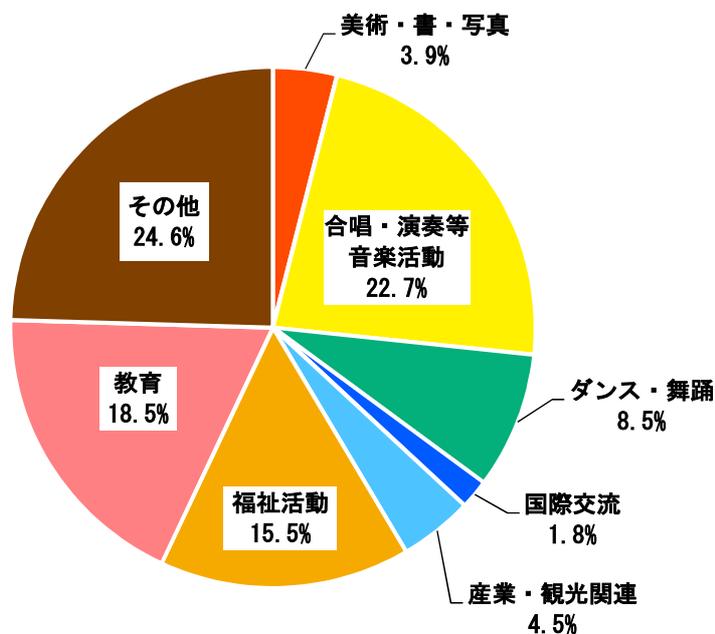
属性 2 (問) 貴団体は設立して何年ですか？

団体の約6割は20年以上の老舗団体で、次いで10年以上20年未満の団体が16.1%、5年未満が11.8%となっている。



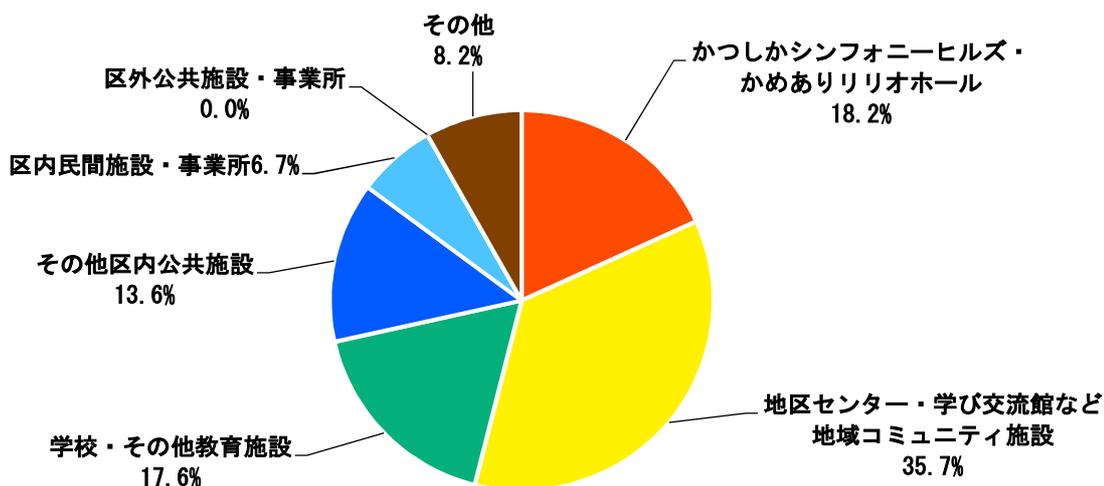
属性 3 (問) 貴団体の主な活動はなんですか？

団体の活動分野は多岐にわたるが、最も多いのが「合唱・演奏等音楽活動」(22.7%)で、次いで「教育」(18.5%)、「福祉活動」(15.5%)であった。



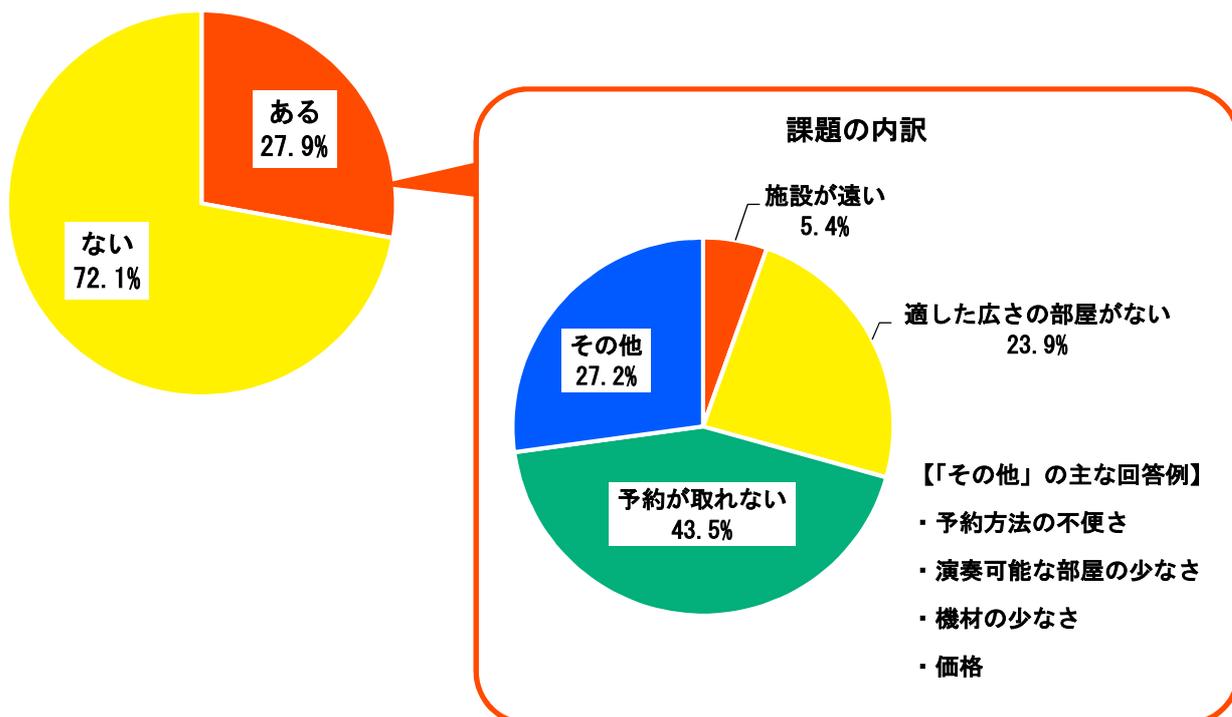
属性 4（問）貴団体は、普段はどのような場所で活動していますか？またその場所を選択している理由を教えてください。

団体の主な活動場所は「地区センター・学び交流館などの地域コミュニティ施設」(35.7%)が最も多く、次いで「かつしかシンフォニーヒルズ、かめありリリオホール」(18.2%)、「学校・その他教育施設」(17.6%)であり、8割以上が公共施設であった。他方、「民間施設・事業所」は6.7%となっている。



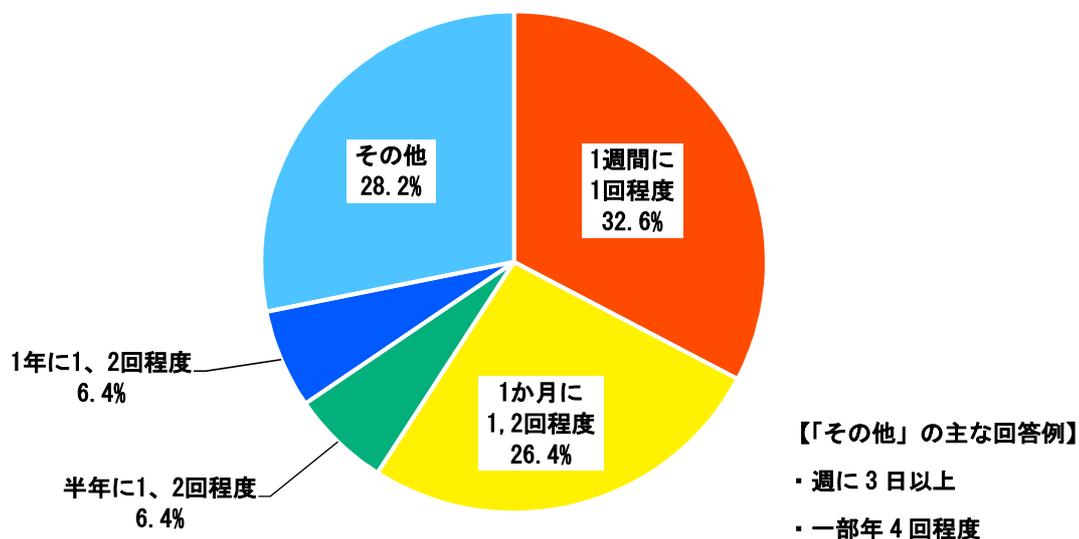
属性 5（問）貴団体が活動場所を確保する上での課題はありますか？

団体にとって活動場所の確保が課題となっていると答えたのは27.9%で、主な理由は「予約が取れない」(43.5%)であった。



属性6（問）貴団体はどのくらいの頻度で活動していますか？

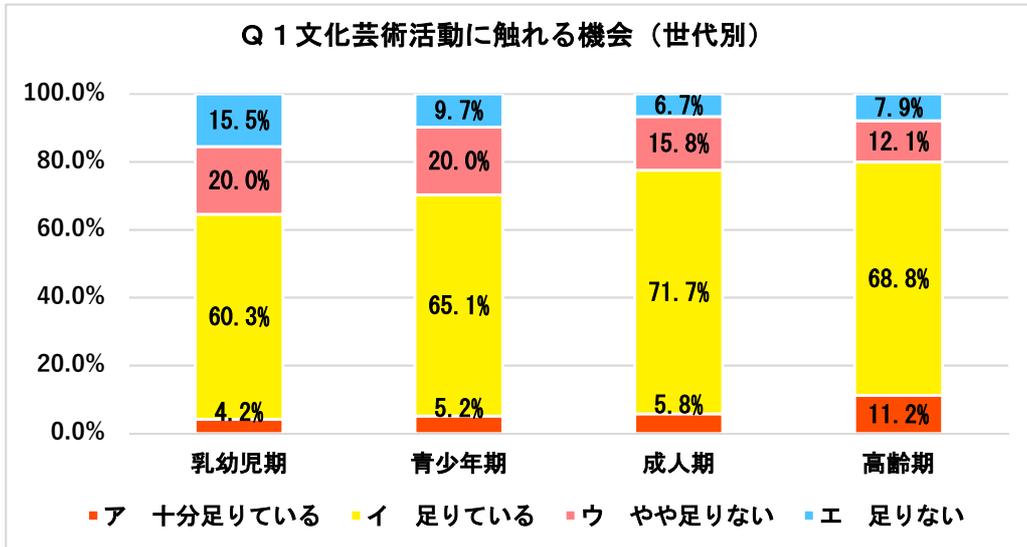
「1週間に1回」ないし「1か月に1、2回」といった比較的活動頻度の高い団体が約6割であった。



設問2 葛飾区の文化芸術に関する基本方針を策定するにあたり、以下の質問にお答えください。

Q 1 (問) 各世代における文化芸術に触れる機会について充実していると思いますか？

世代が高齢期になるほど「十分に足りている」と「足りている」の割合が高くなっている。



【不足と感じる理由〔抜粋。原文ママ(一部集約表記)〕】

(乳幼児期)

- ・小さい子どもが気兼ねなく音楽や美術に触れる機会や乳幼児向けのイベントが少ない。
- ・音楽関係は足りてるように感じるが、絵画・漫画・アニメ・紙芝居などが少ない。
- ・広報としての宣伝力、アピールが足りない。区民に対しての知見を広められるとよい。
- ・区内に乳幼児を連れて行ける美術館がありません。
- ・チケット代が高い。

(青少年期)

- ・学業や他の活動で忙しく参加の機会が確保できない、保護者が付き添いできない。
- ・授業での体験が無くなっている、学校等で鑑賞や体験の機会を設けた方がよい。
- ・東京(渋谷や新宿、高円寺付近)などの洗練された文化に触れる機会が少ない。
- ・金銭的な面で難しいこともある、日本では音楽、芸術、映画などが高いと感じる。

(成人期)

- ・仕事が忙しい。
- ・茶道や華道など体験する機会があるといいのかもしれない。
- ・もう少し敷居が低く、気軽に安く聞けたり楽しめたりできるとよい。
- ・素敵な映画館がない。

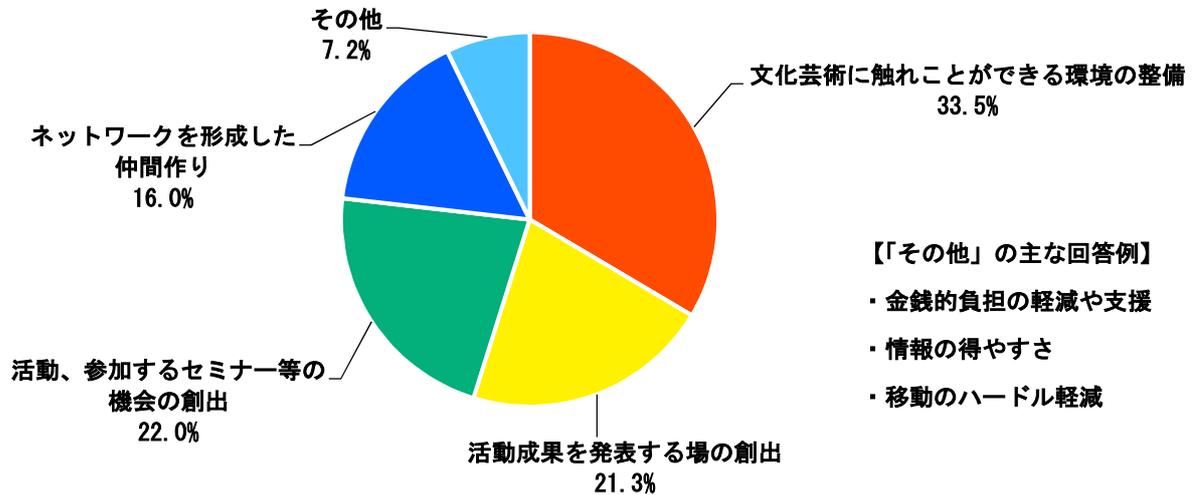
(高齢期)

- ・情報へのアクセス、移動手段の問題も解決してほしい。
- ・近い場所で、手ごろな値段で参加できる芸術・伝統芸能・芸能などが無い。
- ・クラシックに明るくなくても行ってみようかなと思える内容や価格に見直してほしい。
- ・高齢者向けのコンサートなどを開催すると、非常に人気が高く、公演数が足りていない。

Q 2 (問) 高齢者への文化芸術に触れる機会の創出について重要だと思うものは何ですか？

(複数選択可)

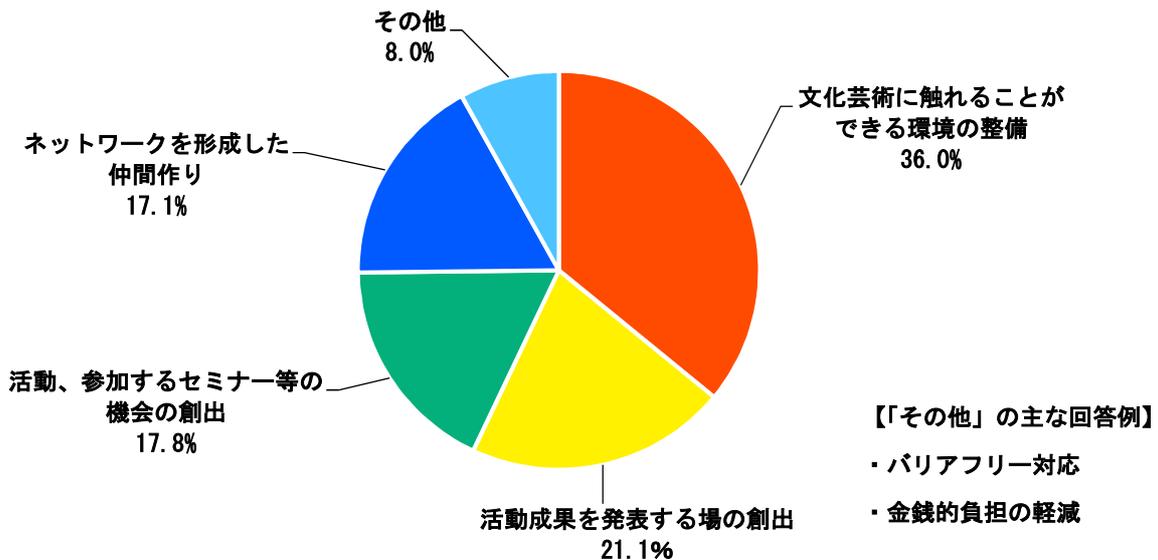
最も多かったのは「文化芸術に触れることができる環境の整備」(33.5%)で、次いで「活動、参加するセミナー等の機会の創出」(22.0%)、「活動成果を発表する場の創出」(21.3%)であった。



Q 3 (問) 障害者への文化芸術に触れる機会の創出について重要だと思うものは何ですか？

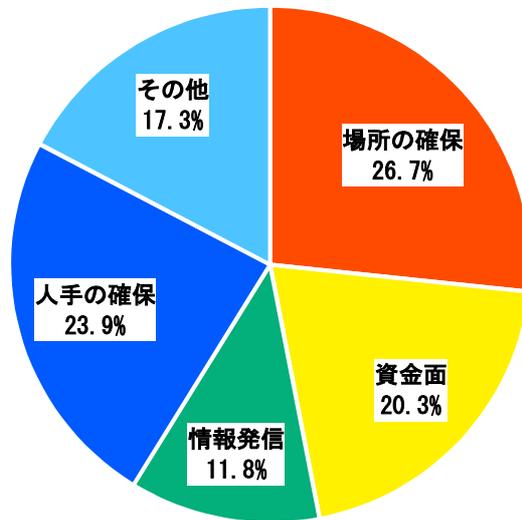
(複数選択可)

最も多かったのは「文化芸術に触れることができる環境の整備」(36.0%)で、次いで「活動成果を発表する場の創出」(21.1%)であった。



Q 4（問）貴団体が文化芸術活動やイベントを行う際の課題は何ですか？

最も多かったのが「場所の確保」（26.7%）で、次いで「人手の確保」（23.9%）、「資金面」（20.3%）であった。

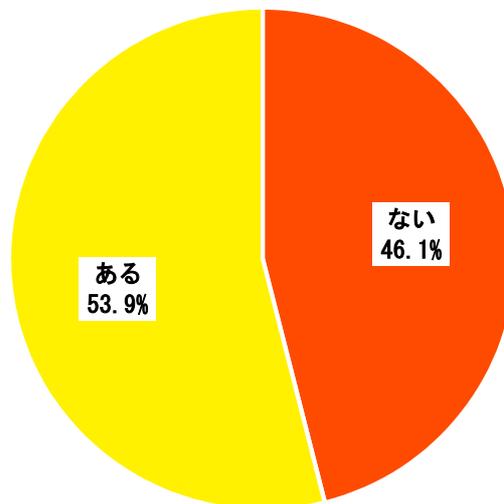


【「その他」の主な回答例】

- ・新規発表の機会を探すこと
- ・時間の確保

Q 5（問）貴団体が今後活動を発展させていくための課題はありますか？

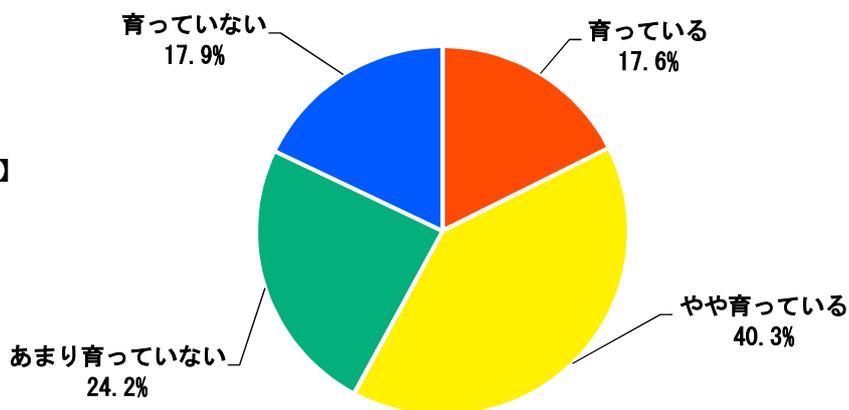
約半分の団体が「課題あり」と回答している。課題の具体的な内容の多くが活動場所や資金や人材の確保となっている。



【「ある」の自由回答例】

- ・新規会員や若い世代の確保
- ・後継者育成、人材確保
- ・活動場所の確保
- ・集客の確保
- ・資金の確保

Q 6 (問) 現在の活動を今後継続するにあたり、後継者といえる人材は育っていますか？

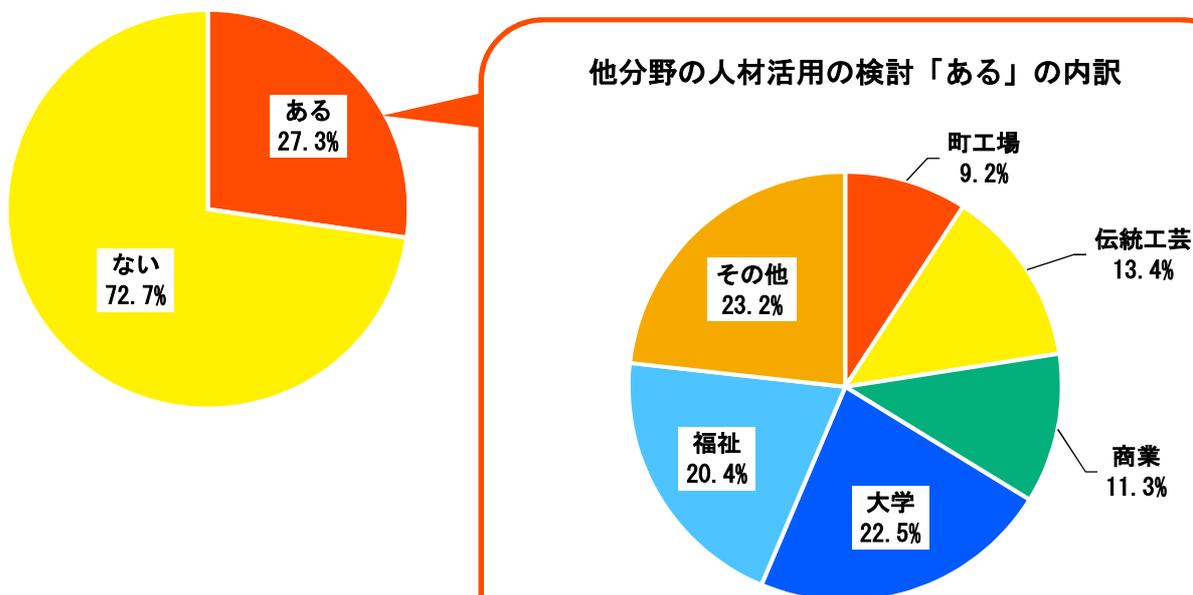


【(あまり) 育っていない理由の自由回答例】

- ・ 習うことや体験には前向きだが、リーダー的立場になりたがらない。
- ・ 高齢化で後継者がいない。
- ・ 若い人が入らない。
- ・ 継続意向はない。

Q 7 (問) 現在の活動の中で、他分野の人材活用を検討したことがありますか？

他分野の人材を検討したことがある団体は 27.3%であった。検討したことがある分野の内訳は「大学」が最も多く 22.5%、次いで「福祉」が 20.4%、「伝統工芸」が 13.4%であった。

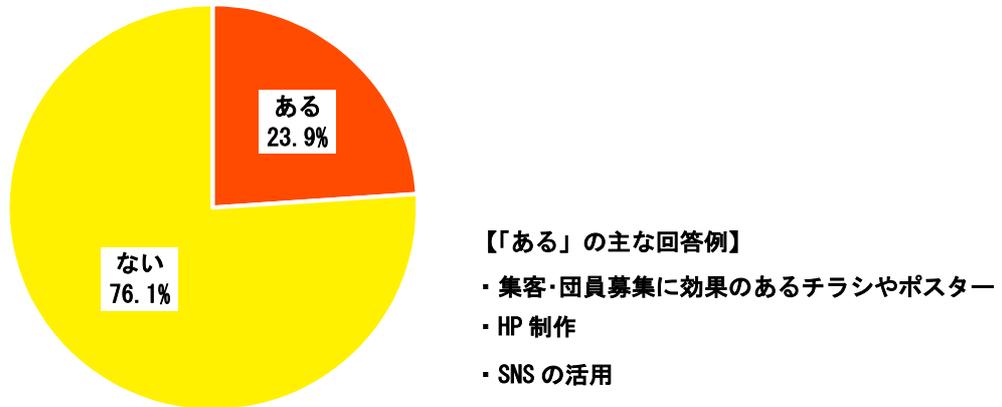


【「その他」の主な回答例】

- ・ 学生ボランティア
- ・ 観光関連分野
- ・ 地域の人材

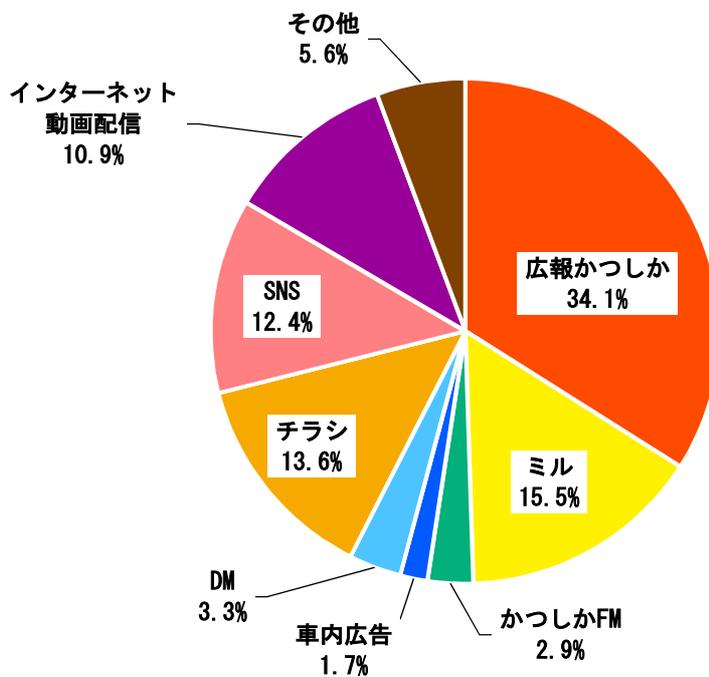
Q 8 (問) 現在の活動の中で、デザインや情報発信等を行う際、専門分野の力を活用したいと思うことはありますか？ある場合、それはどのようなことですか？

デザインや情報発信の分野の人材活用を考えたことがある団体は23.9%であった。



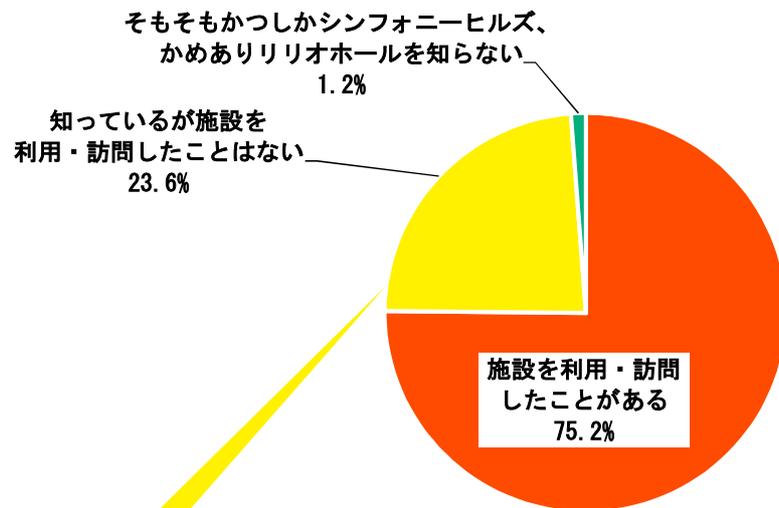
Q 9 (問) 文化芸術活動に関する情報収集を行う際に利用しているものは何ですか？（複数選択可）

媒体として最も多かったのは「広報かつしか」(34.1%)であった。次いで「ミル」(15.5%)であり、この二つで約5割を占めている。他方で、「SNS」と「インターネット動画配信」で2割以上となった。

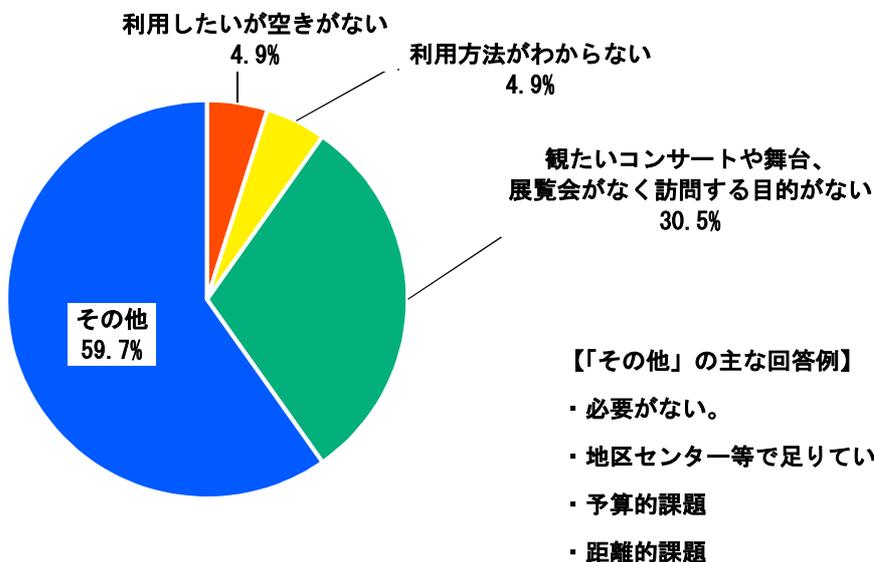


Q10（問）貴団体はかつしかシンフォニーヒルズやかめありリリオホールを利用・訪問したことがありますか？

「施設を利用・訪問したことがない」と「そもそも知らない」を合わせると24.8%であった。利用・訪問したことがない主な理由は「観たいコンサートや舞台、展覧会がなく訪問する目的がない」が3割を占めた。また6割を占める「その他」の内容は「必要がない」「地区センターで足りている」「予算的課題」「距離的課題」であった。

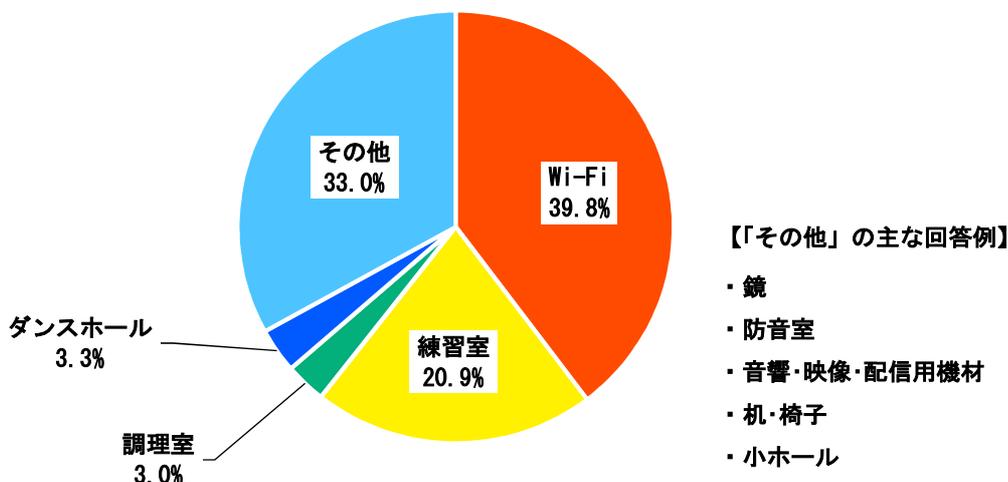


利用・訪問したことがない理由



Q11（問）活動を続けていくうえで、施設機能としてあればいいと思う機能は何ですか？

施設機能としてあればよいと思う機能としては、「Wi-Fi」が最も多く 39.8%、次いで「練習室」が 20.9%であった。



Q12（問）施設の利用にあたり、申し込みなどの手続きが便利になるとしたら、どのようなことを望みますか？（自由回答）

回答の頻出単語を調べると上位が「ネット、施設、申し込み、予約」であり、インターネットによる予約・決済システムを要望する意見が多かった。

【回答例〔抜粋。原文ママ（一部集約表記）〕】

〈予約・申込〉

- ・ネットで申込、抽選、決済、予約変更などが完結できるとよい。
- ・どの施設からでも全ての施設予約ができるとよい。
- ・ネット上で、全施設の空き状況が一覧でわかると便利。
- ・インターネット予約は2か月～6か月前に行いたい。

〈支払方法〉

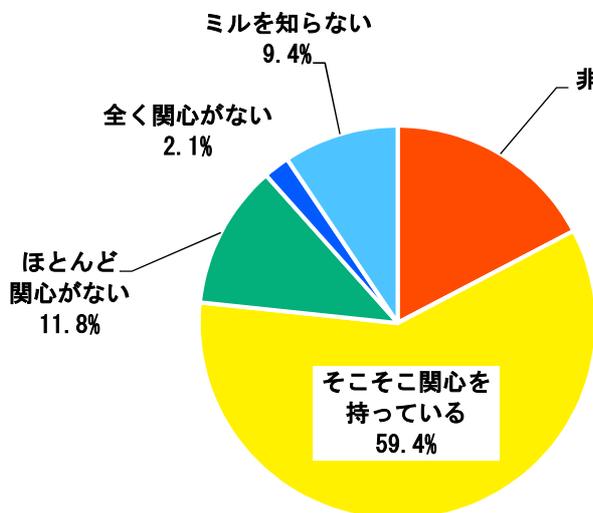
- ・当日窓口でのクレジットやQRコード決済を導入してほしい。
- ・入金窓口だけでなく振込やwebからカード決済などの方法の導入。

〈利用方法〉

- ・優先制度や優先枠設置、年間予約可など（区民や継続利用団体、助成制度採択利用など）
- ・連続して落選している場合に抽選の優先順位は上がらないものか。
- ・練習場によっては鍵の管理・保管場所が離れている、地区センターで借りられるとよい。
- ・窓口での手続時間がかかる。先客がいると長く待つことになるのを解消してほしい。
- ・利用者会議のオンライン化

Q13 (問) 文化芸術活動の情報誌である「ミル」が全戸配布されていますが、どのくらい関心を持っていますか？また、改善すべき点はありませんか？

情報誌「ミル」については、76.7%が関心を持っており、「ほとんど関心がない」「全く関心がない」「ミルを知らない」が23.3%であった。

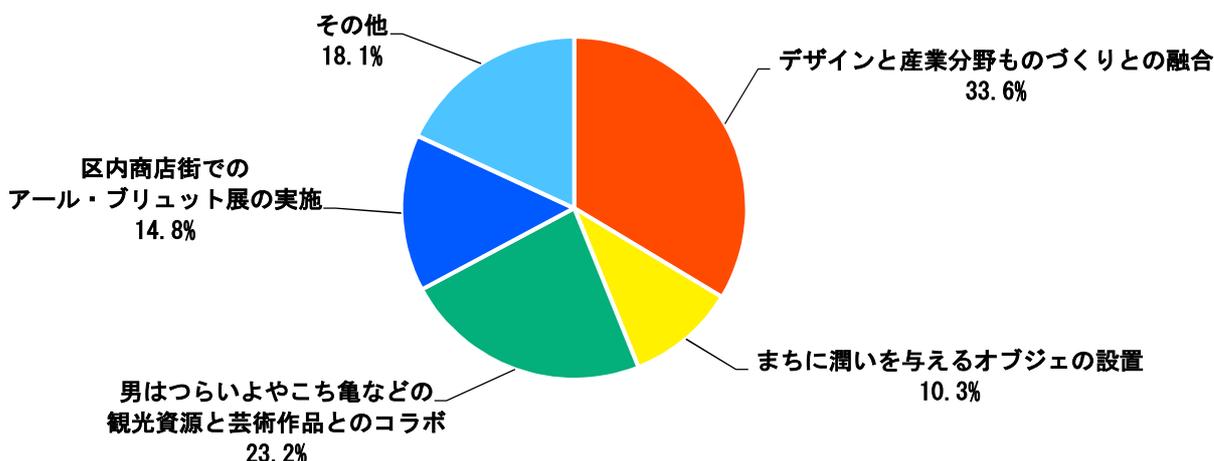


【改善すべき点の回答例】

- ・音楽以外の情報がわかりにくい。
- ・国や都、区などの助成制度を紹介してほしい。
- ・登録団体の活動の様子や、活動のPRなど、もっと取材してほしい。
- ・インターネット上で公開されているとより便利。

Q14 (問) 芸術作品（芸術・美術）を活用することで、葛飾区の新たな魅力を創出できる可能性のある取組は何だと思いますか？（複数選択可）

最も多かったのが「デザインと産業分野ものづくりとの融合」で33.6%であった。次いで「男はつらいよやこち亀などの観光資源と芸術作品とのコラボ」で23.2%あった。

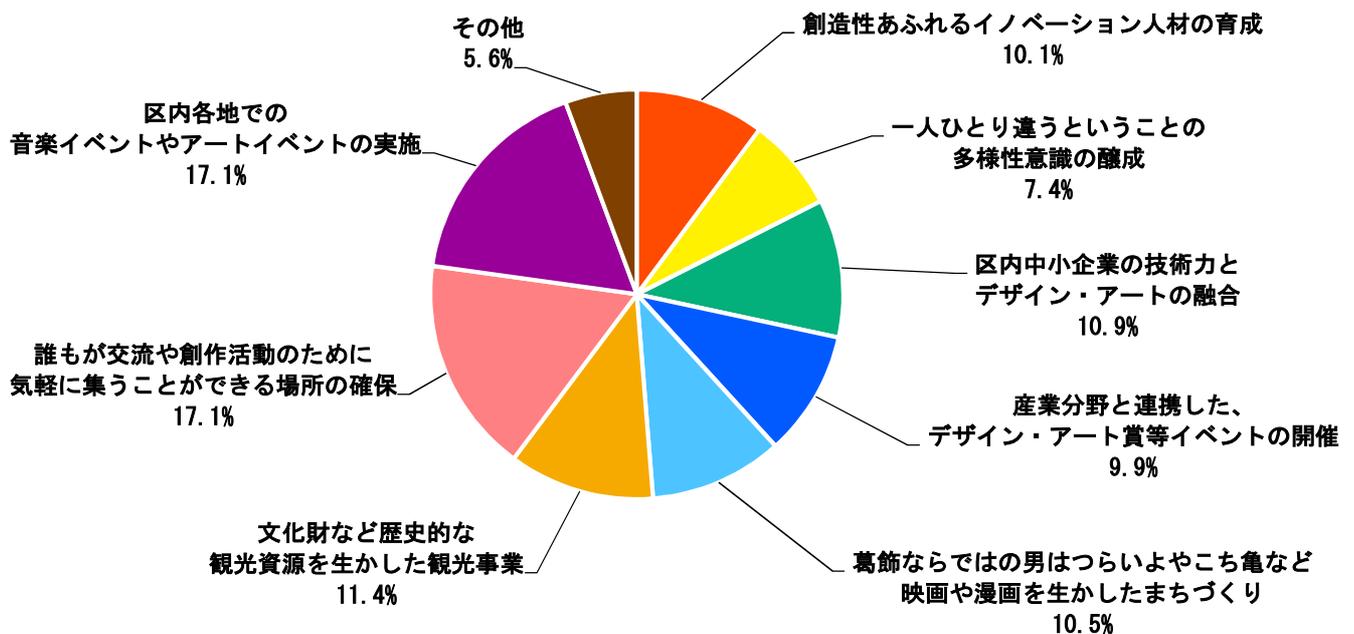


【「その他」の主な回答例】

- ・駅ナカのテナントが減っている。そんな場所を活用し、正規の美術教育を受けていない人による発表を行うのも良いと思う。
- ・芸術家を招聘し、音楽祭、ピエンナーレの開催。
- ・他の団体と交流できるような機会があると広がりが生まれる。
- ・こどもの主体的な活動や成長を包み込む取り組みや街づくりができると良いと思います。

Q15（問）文化芸術を生かした葛飾区の新たな魅力を生み出すにはどのようなことが必要だと思いますか？（複数選択可）

最も多かったのが「誰もが交流や創作活動のために気軽に集うことができる場所の確保」（17.1%）と「区内各地での音楽イベントやアートイベントの実施」（17.1%）であった。他方で「区内中小企業の技術力とデザイン・アートの融合」（10.9%）と「産業分野と連携した、デザイン・アート賞等イベントの開催」（9.9%）を合わせると20.8%となっている。



【「その他」の主な回答例】

- ・区内在住の芸術家が区内で活動しやすくする、場所の提供、資金援助。
- ・ワンコインでクラシックに触れられるラ・フォル・ジュルネのような取組。
- ・姉妹都市であるウィーンと連携して文化財の啓蒙活動。
- ・子どもたちがプロの芸術文化に出会うイベントの実施。（子どもがスタッフとしても参加できる）
- ・地域の歴史的史跡を利用したアートイベントや区の文化財の宣伝。

Q16 (問) 貴団体が他分野との連携企画で参加したいと思う事業等がありますか？ (自由回答)

回答の頻出単語を調べると上位が「イベント、音楽、連携、商店街、地域、参加」であり、イベント実施による地域や商店街との連携を要望する意見が多かった。

【回答例〔抜粋。原文ママ(一部集約表記)〕】

〈音楽〉

- ・大学、専門学校との連携音楽イベントや伝統芸能おけいこイベント。
- ・中・高との合同合唱イベント。
- ・読み聞かせ(絵本)や朗読と音楽の生演奏とのコラボ。
- ・ジャズフェスのような街全体での音楽イベントなど。

〈生活文化・伝統芸能〉

- ・茶道や華道とコラボして謡曲を活かすことができないか。
- ・神社やお寺と連携した華道・茶道イベント。

〈産業・観光〉

- ・外国人と企業と飲食店が連携した祭りイベント。
- ・まち歩きイベントでの町工場や伝統工芸の見学。
- ・伝統工芸品を使っての踊りをとおして伝統工芸や伝統芸能を知ってもらいたい。
- ・工場などの廃材を利用した作品づくりなどできたらよい。

〈福祉・子育て〉

- ・福祉施設利用者と区内音楽家と町工場の知恵と技術とを掛けあわせたイベント。
- ・児童館や子育て施設とヨガをきっかけにママが息抜きのできる時間を作るイベント。
- ・区内の児童養護施設やフリースクールと連携した教育プログラムへの参加支援。

〈スポーツ・健康づくり〉

- ・武道に興味のある方々とのイベント。
- ・姉妹都市とのスポーツ交流。

〈地域イベント〉

- ・近隣の公園や山本亭・堀切菖蒲園でのバザーや音楽イベント。
- ・絵画でストリートアート。
- ・ビールフェス亀有を亀有駅南口でやってみたい。
- ・食文化に関して大学と連携し、知識ノウハウを活かした地域貢献型のイベントができると良い。

Q17（問）文化芸術振興が発展することによって得られる都市のイメージはありますか？また、葛飾区における文化芸術とはどうあるべき、あるいは、どうあってほしいと思いますか？（自由回答）

回答の頻出単語を調べると上位が「文化芸術、下町」であり、文化の伝承や下町情緒の保全を要望する意見が多かった。

【回答例〔抜粋。原文ママ（一部集約表記）】

- ・下町情緒あふれる街並みを活かし、都心には残っていない人情を生かした”下町文化”を残してほしい。
- ・昔からの下町のイメージを残しつつ、葛飾 SC やキャプテン翼などアニメやスポーツとの融合。
- ・23 区の中でも伝統工芸や町工場のイメージが強いので、それがオシャレにプロデュース・発信されて海外の方などにも知ってもらえたらよい。
- ・下町的な魅力がありながら工業的にもトップレベルの技術や物があるところが売りになるとよい。インダストリアルデザインアート。
- ・すでに世界中からサブカルチャーの街と認識されている葛飾区なので、その側面と文化芸術との融合が非常に重要と考える。方向性を間違えてはいけない。観光資源としてのサブカルチャーは大きな武器ではあるが、あくまでも区民のための文化芸術振興であってほしい。10年後、100年後葛飾区というブランドが世界でどの位置に立っているかを見据えた長期的な展望を持って政策に当たってほしい。
- ・文化芸術に身近に触れ合える町、年代に関係なく様々な世代で文化芸術に触れ合える町になるとよい。
- ・柴又や寅さんのイメージもあり、どこか懐かしさのある人情味あふれる人々が暮らす、ふるさと葛飾だが、その良さを引き継ぎつつ、若者など次世代にもつなげられるような、新しい発想で、魅力ある葛飾になってほしい。

Q18（問）文化芸術活動を行うことで得られる効果はどのようなものがあると思いますか？（自由回答）

回答の頻出単語を調べると上位は「心、生活、活動、交流、人生」であり、人と人のつながりをテーマにする意見が多かった。

【回答例〔抜粋。原文ママ（一部集約表記）】

- ・日本をより好きになる、葛飾をより好きになる、地域力の向上、郷土愛。
- ・人の輪が広がる、世代間交流、人とのつながり。
- ・経済効果、活気のある生活、若い人が増える、賑わいの創出、街の活性化。
- ・教養が養われ、そこで培われた多様性の認識と寛容さは世界平和に繋がる。
- ・心が豊かに育つ、心にゆとりある暮らし、生活に潤い、生き甲斐が生まれる、心の支え。
- ・発表することで達成感や自己肯定感が得られる。活動の場は交流を生み孤立を防ぐことになる。文化芸術の振興は健康寿命を大きく伸ばすと考える。
- ・人生の質の向上、楽しみ方の向上。
- ・感動することが継続できるモチベーションを生む。多くのジャンルの芸術に触れ、たくさん感動することによって未来の担い手が生まれる可能性が増えるのではないか。

資料—3 策定経過

【1】（仮称）かつしかアート・カルチャー基本方針 策定経過

○（仮称）かつしかアート・カルチャー基本方針策定委員会

日 程	内 容
令和6年7月5日 第1回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長・副委員長の選任 ・会議及び会議録等の取扱いについて ・基本方針策定スケジュール（予定）について ・葛飾区の文化施策の現状と課題について
令和6年9月27日 第2回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針の趣旨と位置づけについて ・葛飾区の文化・芸術に係る現状と課題について ～アンケート及びヒアリング調査の結果～ ・基本方針の骨子案について ・今後のスケジュール（予定）について
令和6年10月25日 第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針の素案について ・基本となる方向性（目指すべき未来像）案について ・今後のスケジュール（予定）について
令和7年2月7日 第4回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）かつしかアート・カルチャー基本方針（案）について ・パブリック・コメントの実施結果について

○区民意見提出手続制度（パブリック・コメント）

対 象	一 般	区内小中学校の児童・生徒
実施期間	令和6年12月13日～令和7年1月14日	同 左
閲覧場所	区政情報コーナー、区民事務所、区民サービスコーナー、図書館、健康プラザかつしか、文化国際課（かつしかシンフォニーヒルズ）、区ホームページ	専用WEBページ
意見提出者	6名	279名
意見総数	12件	279件 (小学校105件、中学校174件)

【2】（仮称）かつしかアート・カルチャー基本方針策定委員会設置要綱

令和6年5月21日
6 葛地文第72号
区 長 決 裁

（設置）

第1条 葛飾区（以下「区」という。）における文化芸術の振興及び文化を通じたまちづくりに関する基本方針（以下「基本方針」という。）を策定するため、（仮称）かつしかアート・カルチャー基本方針策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- （1）基本方針の策定に関すること。
- （2）区の文化施策の現状と課題等の把握及び将来の方向性に関すること。
- （3）その他、基本方針の策定に必要な事項に関すること。

（構成）

第3条 委員会は、区長が委嘱し、又は任命する学識経験者、公募区民、政策経営部長、地域振興部長、産業観光部長及び教育委員会事務局教育次長をもって構成するものとする。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱の日から基本方針を策定する日までの期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長が指名し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第6条 委員会は、委員長が招集する。

（会議）

第7条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(意見聴取等)

第8条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(秘密の保持)

第9条 委員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(作業部会の設置)

第10条 委員会に作業部会（以下「部会」という。）を設置する。

2 部会は、第2条に規定する事項について調査し及び検討し、その結果を委員会に報告する。

3 部会は、部会長、副部会長及び部会員をもって構成する。

4 部会長は文化国際課長、副部会長は観光課長の職にある者をもって充てる。

5 部会員は、別表に掲げる職にある者をもって充てる。

6 部会長は、部会を代表し、会務を総理する。

7 部会は、部会長が招集する。

8 部会は、必要であると認めるときは、構成員以外の者を部会に出席させ、意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

9 前各項に定めるもののほか、部会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

(庶務)

第11条 委員会及び部会の庶務は、地域振興部文化国際課で処理する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

付則

(施行期日)

この要綱は、令和6年5月21日から施行する。

別表（第10条関係）

政策経営部	協働推進担当課長
政策経営部	政策企画課 企画担当係長
地域振興部	文化国際課長
地域振興部	文化国際課 文化国際担当係長
産業観光部	観光課長
産業観光部	観光課 観光担当係長
教育委員会事務局	生涯学習課長
教育委員会事務局	生涯学習課 生涯学習係長

【3】(仮称) かつしかアート・カルチャー基本方針策定委員会 委員名簿

	役 職 等	氏 名
◎	政策研究大学院大学 名誉教授	垣内 恵美子
○	青山学院大学 総合文化政策学部 教授	片山 泰輔
	特定非営利活動法人 S T 株式会社横浜 理事長	小川 智紀
	一般社団法人 文果組 代表理事	神保 富美子
	SOBASUTA 株式会社 代表取締役	傍嶋 賢
	公募区民	齋藤 歩
	公募区民	堀口 剛
	葛飾区政策経営部長	長南 幸紀
	葛飾区地域振興部長	吉本 浩章
	葛飾区産業観光部長	吉田 峰子
	葛飾区教育委員会事務局教育次長	中島 俊一

◎ : 委員長 ○ : 副委員長

(敬称略、順不同)

かつしかアート・カルチャー基本方針

令和7年（2025年）3月

発 行	葛飾区
編 集	葛飾区地域振興部文化国際課
〒124-0012	東京都葛飾区立石6丁目33番1号 かつしかシンフォニーヒルズ 別館2階
電 話	03-5670-2259
F A X	03-5670-2265
E-mail	050450@city.katsushika.lg.jp
葛飾区ホームページ	https://www.city.katsushika.lg.jp/

※この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。

